



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

研修名 2年経験者研修 課題等研修

平成27年8月26日(水)実施
高知大学教育学部 鈴木 恵太 講師

概要

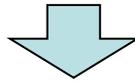
発達障害について、それぞれの特性や特徴を知るとともに、特別支援教育の視点から適切な対応や支援の方法を学ぶ。

✓ 通常の学級に在籍する発達障害等のある児童生徒の割合は、すべての校種で増加傾向

発

発達障害のある児童生徒への共通する指導のポイント

- ・ 個人の特性（理解力・認知バランス・障害特性）を考慮して、「これだ」として把握する
- ・ 課題となる行動と環境を調整する
- ・ 課題行動の結果への適切なフィードバックを行う



重要!
それぞれの特性の理解
個々の児童生徒のアセスメント

- 👉 見通しがもてると、安心して活動に集中できる
 - ・ 目標（ゴール）と手順（ステップ）を明確（視覚的・聴覚的）に提示する
- 👉 どの情報に注目すればよいか明確だと、作業に集中しやすい
 - ・ 不要な刺激は極力削減する
- 👉 指導者によって支援の内容やレベルが違っていると、児童生徒が混乱する
 - ・ 支援の内容やレベルを調整する



ASD（自閉スペクトラム症）

自己モニタリングの弱さ
想像性の弱さ
社会性（ルールの理解）の弱さ
他者の心的状態の理解の弱さ



- ・ 行動や状況を振り返って、きちんと理解できてから指導を
- ・ 改善点や良かった点のフィードバックが重要
- ・ 「暗黙のルール」はとても苦手なので、具体的に示す

ADHD（注意欠陥多動症）

不注意優勢型 混合型 多動性-衝動性優勢型



- ・ 黒板まわりの掲示物はシンプルにする
- ・ 課題提示はスモールステップで行う
- ・ 集中の持続時間に配慮した説明の長さで行う
- ・ 覚えていられる程度の説明の量で行う
- ・ いくつもの作業を同時に行わない
- ・ 指示や手順を視覚的に残しておく

LD（学習障害）

全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得に著しい困難を示すさまざまな状態を指す



- ✓ 視覚的認知機能、聴覚的認知機能、記憶機能のうち、どこにアンバランスさがあるのかに着目した対応が効果的

【受講者の感想】

- ・ 個々の特性やリソースをきちんと把握して、得意なことを伸ばしていくための手立てを考えることの重要性を知ることができたので、この視点を今後の指導で大切にしたい。